

第4回 守口市まち・ひと・しごと創生委員会 議事録

日 時 : 平成28年3月23日(水) 14:00~16:00

場 所 : 守口市教育センター4階会議室1

出席委員 : 9名

眞鍋昇委員、石井貴委員、佐竹雅幸委員、吉岡典昭委員、南口哲也委員、
長谷川敦子委員、中堀恭平委員、山口行一委員、岩佐聖二委員

欠席委員 : 4名(赤堀彰則委員、大谷英理子委員、瀧川光治委員、宮本一彦委員)

傍聴者 : 1名

◎委員長 ○委員 ●事務局

I. 開 会

1. 委員長挨拶

◎委員長

定刻となりましたので、「第4回守口市まち・ひと・しごと創生委員会」を開催いたします。委員の皆様にはご多忙の中、ご参集いただきありがとうございます。議事に入る前に、事務局より本日の出席委員数の報告をお願いします。

●事務局

本日は、委員定数13人中9人が出席です。

◎委員長

ただ今事務局から報告があったように、委員会条例第5条第2項の規定に基づいて、定足数に達しているため、この委員会は成立しています。

2. 前回の議事録について

◎委員長

まず、前回の議事録についてです。一部修正点がありますので、事務局から説明をお願いします。

●事務局

(議事録の訂正について説明)

◎委員長

修正させていただくことでよろしいでしょうか。

○委員全員
(異議なし)

◎委員長

それでは、そのように修正をお願いします。他にご意見はないようなので、これを前回の議事録としてお認めいただいたということでもよろしくをお願いします。修正した議事録につきまして、宮本委員と石井委員にご署名をお願いします。

II. 議題

議題 1. 意見交換

- (1) 「守口市人口ビジョン及び守口市まち・ひと・しごと創生総合戦略」について
- (2) 守口市まち・ひと・しごと創生総合戦略に係る平成 27 年度において実施した取組等について

●事務局

(「守口市まち・ひと・しごと創生総合戦略 概要版」説明)

◎委員長

本日は、意見交換を 2 件予定しています。2 番目の議題とも深く関連していますので、2 番目の事務局の説明を終えた後に、全体としてまとめて議論を行います。

●事務局

(「守口市まち・ひと・しごと創生委員会の活動について(案)」説明)

◎委員長

本日も含めて今年度は 4 回集まっていただきました。3 回目が終わった段階で一つ区切りをつけて、市長に提言を出しました。本日の会議では、今年度のことに加えて「来年度からどうするのか」ということも大きなテーマです。

事務局の原案では 4～5 月頃に 1 回、7～8 月頃に第 2 回目ということですが、ご意見をお願いします。各委員に順番にお聞きします。

○委員

初めてなので 2 回が多いのか少ないのかは分かりませんが、このイメージでよいです。

○委員

これでよいと思います。

○委員

これでよいと思います。

○委員

これでよいと思います。

○委員

これでよいと思います。

○委員

これでよいですが、2回は少ない気がしないこともないです。

○委員

これでよいと思います。

◎委員長

それでは、事務局の原案に沿って進めさせていただきます。

次に戦略に係る取組について、平成27年度に実施した主なものについて、事務局から説明をお願いします。

●事務局

(「子ども医療費助成の拡充について」説明)

◎委員長

守口市は、全国的に見ても、子ども医療費助成をかなり厚くしていることについて、ご意見がありました。若い世代を守口市に呼び込むことを考えると、最近国会では保育所が話題になっていますが、もっとロングタームで考えると、子どもは病気をしやすいため、子ども医療費助成は大きなメリットになると思います。各委員はいかがですか。

委員は、長く守口市にお住まいですが、守口市が子ども医療費助成を厚くしていることを、ご存知でしたか。

○委員

子育て支援センターにいたので、毎年、子ども医療費助成の情報は入っていました。ただし、若い人が知っているかどうかについては、PRが足りないと思います。子育てに関

する支援は、私たちの頃に比べれば、今のほうがかなり手厚いです。もっと宣伝して、守口市に来ていただけるようになればよいと思います。

◎委員長

医療費助成は、約4億8千万円の予算を予定していましたが、結果的に約3億5千万円になったということです。「市民が元気で、それほど病気にならなかったということなのでよかった」という見方もありますが、この制度をあまり理解していないことで、本来なら利用できる人が利用しなかったという可能性はありますか。

○委員

各家庭で知っていなくても、医療機関が知っていれば自動的に受けることになるのではないのでしょうか。

●事務局

子ども医療費助成は、出生届を出したタイミングで、基本的に全員に子ども医療証を交付します。それを医療機関に提示すれば、自動的に助成を受けることができます。医療証を忘れたときは、後日医療機関で清算することもできます。

◎委員長

守口市内の医療機関であれば、自動的に助成を受けることができても、市外の医療機関だと助成が受けられず、自己負担が増えることはないですか。

●事務局

医療証を持っていけば、自己負担は、どの医療機関でも1医療機関あたり月額千円までです。

◎委員長

市民が元気だったということですね。了解しました。

現在、守口市に住んでいる若い人はよいのですが、近隣を含めて、このような制度があることを広報することは重要だと思います。委員はいかがですか。

○委員

外に対するアピールが大事だと思います。医療機関で自動的に助成を受けられるので、助成を受けているという感覚がないかもしれません。市としては、PRしなくても実施していれば実績になりますが、このような制度があることを知ってもらうためのアピールは必要だと思います。

◎委員長

市の広報誌は、現在住んでいる人に対する情報です。商品売るようなプロモーション的な意味合いで考えると、特に若い人に対する広報は、従来のものとは異なる、例えばフェイスブックなどのインターネットをポジティブに活用した広報を考える必要があると思います。

○委員

「他市と比べてどうなのか」という情報を表に出すのは難しいと思います。メーカーの商品でも、比較広告はしにくいです。SNSなどを通じて自然に広がっていけばよいと思います。私の子どもはもう大きくなっていますが、制度に関係ない親の層にも、きちんと情報が行き届いているかが重要です。おじいちゃん、おばあちゃん世代が知っていれば、口コミになります。子どもをもつ若い世代は知っていると思いますが、市民全体で、このような制度があることを認識してもらうことが大事です。それが口コミだと思います。

○委員

近隣の自治体での医療費助成はどうですか。

●事務局

全国的にも、医療費助成の拡充は進んでいます。極端な例では、18歳まで医療費助成を行っているところがあります。所得制限を撤廃したところは把握していません。

○委員

大阪市は、中学生の医療費助成では所得制限を設けていますが、守口市でそれを撤廃したことは大きいです。次の区切りとしては対象年齢の18歳までの引き上げかと思います。

以前もこの場で述べたかもしれませんが、住宅情報誌が定期的に各市の魅力を比較したデータを半年毎くらいに数ページですが特集して掲載しています。そのような機会に、積極的に守口市の魅力を書いてもらえるようなPRができればよいと思います。

○委員

施策では、医療費助成だけでなく、今後出てくる様々なことに対して助成活動を行うことが大事です。宇治市に住んでいるときに、結婚して初めてこのような市の助成制度があることを知りました。私が住んでいる市では幼稚園までしか助成制度がありませんでしたが、隣の市では、小学校ぐらいまでありました。これだけが決め手になるとは思えませんが、マンションや住宅の販売でも、この地域にはどこに小学校があり、どこにショッピングセンターがあり、何m以内にどのような市の施設があるかなどが重要です。そこに守口

市の魅力として、制度やしきみが入ればよいと思います。

○委員

弊社もデベロッパー機能を担っている部署があります。企業などにもPRしてもらえばよいと思います。

○委員

市がSNSでPRするのもよいですが、他のところにPRしてもらえるようになればよいと思います。企業が守口市の魅力を発信して人が集まれば、その企業にとってもプラスになります。

◎委員長

以前も議論になりましたが、守口市は交通の便がよく、マンションを購入するにもよいところですが、子どもが生まれると転出する傾向がみられます。定住してもらうためには、PRも重要です。このようなご意見を事務局で取り入れて、もっと広報に力を入れて市を売り込むことに尽力していただきたいと思います。

他にご意見がないようなので、続いて、この委員会の推進体制についてご意見をいただきたいと思います。守口市の総合戦略が策定されました。事務局から説明があったように、今後、具体的に様々な取組が予定されています。守口市の創生を具体化して掘り下げていくうえで、深く関わる金融機関の委員もおられますが、各関係機関と守口市との連携を具体的に実現していくことが必要です。総合戦略で掲げる取組について、それぞれの立場で推進体制や取組内容について、いかに具体化すれば市民にとってよいかについて、ご意見をいただきたいと思います。

例えば、若い世代に住んでいただくために、若い人に魅力を感じてもらう住宅を供給するには、実際にはどのようにすればよいのかが重要です。例えば、不動産関係に情報を提供するなど、それぞれのお立場や個人的なご意見をお聞かせいただけたらと思います。委員はこの分野の専門ですが、住宅供給についていかがですか。

○委員

現在、守口市駅の駅前開発が進んでいますが、そこが賑わいの中心になると思います。駅前開発で適度な賑わいを創出しながら周辺の住宅ストックの質を向上するという、面としての開発を進めるのがよいと思います。密集市街地や住宅ストックそのものの更新の問題もあります。公の持ち物ではなく個人の持ち物なので、時間がかかるとは思いますが、着々と更新を進めていくことが重要だと思います。また、駅前を中心にPR戦略をするなどして、まちの印象を確立していくことも重要だと思います。

◎委員長

空き家をすべて壊して、大きなマンションを作ることも1つの方法ですが、空き家を利用することも重要です。守口市としての、何かよい提案はありませんか。

○委員

空き家は権利関係もあり、なかなか難しいです。個別の空き家をリノベーションする方法もありますが、現在求められていることとして、防災の観点からエリアとして更新することが重要になっています。空き家数軒を軸に、面として、マンションなどにして更新できるものがあればよいです。保存したほうがよいというくらいの空き家が多くあればよいですが、現状では、個別の対策を行うのは厳しいです。

◎委員長

私が個人的に携わっている鳥取市鹿野町も人口が減少していますが、都会の人口減少とはパターンが異なります。立派な空き家の持ち主が都会に住んでいるケースが多いのですが、持ち主の了解を得て、市と地元のNPOが手を入れています。意外にも、若く大阪で生まれ育った人などが住んでいるようです。例外的かもしれませんが、このような例もあります。京都市内は京町家と言って、若い職人が店を作ったりしています。これには、委員が言われたような、残すだけの魅力ある空き家かどうかに関わってきます。

○委員

個別にみると成功している事例もあります。リノベーションだけでなく、周囲とセットでうまくいっているケースが多いです。個別の案件はできるかもしれませんが、取り組むならば、かなり本気になって取り組まなければなりません。

◎委員長

この委員会でも、商店街に空き家が増えてシャッター街になっていることから、商店街のリノベーションをしてはどうかという発言があったと思いますが、そのようなことも関連するかもしれません。委員は、不動産関連の専門家の目から見ているかがですか。

○委員

守口市で大事にしてもらいたいのは、総合戦略の「基本目標1」に関することです。現在、小・中学校の統廃合を進めており、小中一貫校の整備も行っていますが、これには2つの良い効果があると思います。

1つは、学校が統廃合されることで、開発の種地が出てくることです。廃校になる場所が出てくるので、その大事な土地を、守口市としていかに利用するかが大事です。

もう一つとして、古いものには味があるという面もありますが、自分の子どもを学校に

通わせる場合、やはり新しくきれいな学校が好まれます。私が通っていた小中学校はけっこう古かったので、ホームページで、今年オープンした小学校や中学校の写真をみるとうらやましいです。伝統もあると思いますが、新しくきれいな学校で伝統を作っていくのもよいと思います。「基本目標1」は大事にしていきたいです。これによって、様々な魅力を発信できると思います。

不動産関連で言えば、マンションの供給は、ここ数年、他都市に比べて多くなかったため、その種地にもなります。

◎委員長

私は田舎で育ったため「人間、生きていけばいいじゃない」という考え方をもっていたが、今の若い世代はかなり違うようです。私の大学は元々女子大学だったせいか、オープンキャンパスをすると、学生がまず見るのはトイレです。「トイレがどれだけ美しいか」を見るためにオープンキャンパスに来ると言われるくらいです。小中学校は別でしょうが、高校で、しかも私立高校になると、女子学生を集めるためにはトイレをきれいにすることが必要です。もちろん、全体が美しければよりよいです。

先ほどのご意見にあったように、若い人が、特に公立の小中学校や幼稚園、保育園がよいと思えば、「ここで子育てしよう」と思うようになると思います。若い人は、汚いところが嫌いで田舎も嫌いです。かつて東京の大学が、八王子市の、不便だが広いところにキャンパスを作りましたが、人が来なかったため、結局お茶の水の狭いところに移り、高層ビルになりました。若い人はその方が好きです。今は価値観が変わってきています。

そのような観点で見ると、空き家対策は、ネガティブなものになってしまっていますが。

○委員

空き家対策は、状況の把握から始めなければならないため非常に大変だと聞きます。外から見ても空き家かどうかは分からないため、極論を言えば、1軒1軒確認することが必要です。

◎委員長

場合によっては耐震の問題もあります。リノベーションすると、新築より高くなることもあると聞きます。

○委員

古いと言っても、建てられた時期によります。この時期以降になっていけば、手を加えなくても済むというものもありますが、本当に古く、撤去してもらわないと困るものもけっこうあります。

◎委員長

若い人は、現金で購入することが難しいことが多く、ローンが必要になりますが、古い家を対象に住宅ローンを組むことは難しいですか。

○委員

期間によります。マンションは貸す物件ではなく、自分で使う物件なので、そこは多少見れると思います。しかし、例えば、築45年の物件に35年ローンをつけることができるのかという話になります。

◎委員長

若い人が、結婚して新たに住もうと思っても、現実的には難しいのでしょうか。

○委員

若い人は、あまり古い家を好まないのではと思いますが、どうでしょうか。

◎委員長

まずは、それがあられるかもしれません。

○委員

テレビで見ましたが、自分好みにリノベーションしたいという願望がある人は、箱は安く買えばよいという人もいます。ただし、数としてはマイノリティです。

○委員

中には、そういう人もおられるということだと思います。

◎委員長

自動車も同様です。ほとんどの人は新車か、それほど古くない中古車を買います。たまにアメリカの大きな古い車に乗る人もいますが、おっしゃるように趣味の世界です。この件に関しては、なかなか特効薬はないようです。

○委員

総合戦略で、空き家についてはKPIが設定されているので、この5年間で実績を上げていく必要があります。具体的な取組も記載されていますが、どの施策もそうですが、市単体で進められるものと、そうでないものがあります。空き家対策は、金融機関にとって非常にリスクが大きいです。提案の中身を十分精査して、自分のところだけで、リスク

を負うことができるか、もっと計画をブラッシュアップしたほうがよいのではと思うと思います。子育ての施策でも同様ですが、今後これを進めていくには、リレーションやネットワークなどの発想が大事です。既に市に様々なネットワークがあると思いますが、例えば、市に相談があれば商工会議所に、商工会議所から金融機関に情報展開するようにタイアップしておき、お客様が、どこでもワンストップで相談できる体制が必要だと思います。子育ての施策も同じです。市に行けば、産後の面倒を見てくれる産後院のNPOの情報が分かるなどです。今後、施策を進める上では、開発であれば、大きな不動産業者や京阪電鉄などとのリレーションがなければうまくいかないと思います。そのような発想をこの中に盛り込んで進めればスムーズにいくのではと思います。

◎委員長

今回の総合戦略では、数値目標を掲げています。数値目標は外から見ても分かりやすくよいのですが、達成したかどうか、○か×かが明確になります。リレーションのハブを市がどこまで果たせるかです。1対1でなく、関連する複数の人がグループになって対応できるシステムが必要ですが、難しいのかもしれませんが。

○委員

行政が中心になって様々なところを紹介したり、専門家を派遣する体制が必要です。市民から相談があった場合、どこに行けばよいか分かるリストがあれば、取り組みやすいと思います。

◎委員長

概要版に4つの基本目標がありますが、これを具体化するという視点でご意見をいただきたいと思います。

基本目標1は、事務局からの説明にもあったように、これをすべて行うのが理想ですが、それは大変です。人、物、金の兼ね合いもあります。総花的でなく、優先順位をつけて、まずはどこを重点的に行えばよいかなどのご意見があれば、お願いします。委員はいかがですか。

○委員

優先順位と言っても、それぞれのことが、それなりに関連していると思います。「若い世代の結婚・妊娠・出産・子育て」を考えると、医療助成もありますが、教育が大事だと思います。公立の幼稚園から小学校や中学校などの整備が大事です。親の立場で言うと、もっともお金がかかるのが教育です。校区のよいところは人気があることを考えると、教育は大事な取組です。短期的にも、長期的にも、若い人が住むところを決める時に教育は大きなポイントになります。

◎委員長

赤ちゃんのときだけでなく、子どもを産んで育て、将来的に成人して家庭を飛び立つまでを考えると、ご意見はもっともだと思います。

○委員

初回から申し上げているように、私も教育が大事だと思います。「守口市の公立小学校、公立中学校に通わせれば、しっかり学力がつく」ということが根付いていけば、他の市町村からも注目され、「住みたい」と思ってもらえる大きなポイントの1つになると思います。

医療費助成をしっかりと行っていることは、親世代として非常にありがたいです。しかし、その分、教育に、例えば1億円かけて土曜日に授業するなどを打ち出せば、賛同する保護者は多いと思います。十数年前から、ゆとり教育で土日休みがスタートしましたが、これも大きくは間違いないと思います。しかし、そこに予算がなかったことで、土日をただただ過ごす子どもが増え、経済的に余裕があるところでは、教育や感性を豊かにする時間に費やすことができたため、そこに大きな差が出てきました。今は、学校の先生に土曜日まで授業を行ってもらうことは言いにくくなっているため、教育に1億円投資して、NPOや地域の住民に土曜日にしっかり関わっていただければと思います。土曜日に授業があるほうがよいです。特に1、2年生は、月曜から金曜まで大変ハードな時間割で、習い事にも行っているため、平日の余裕がないのが辛いと聞きます。平日の余裕をもたせるためにも、土曜日の授業を再開してほしいという声が多いです。

「医療費無料はありがたい」という声が多いと思いますが、医療費無料は、かえってコンビニ受診で医療費をパンクさせることになると思います。ちょっとした風邪や怪我でも医療機関にかかって、抗生物質や薬を多用することにつながることも懸念されます。それより、保護者が、病気にならない体づくりをする子育てを行って、それでも子どもが病気になった場合は、医療をしっかり受けてもらうという考え方になってもらうことが必要です。ちょっとした熱でも休日診療や夜間診療を利用するようになるのは、悪い歯車の1つになります。

少し話が逸れますが、各省庁で重点施策を出していますが、その中で2つほど申し上げます。国土交通省が、今後の少子高齢化に向けて、各都道府県にコンパクトシティというまちづくりの考え方を打ち出しています。それが、どこまで進んでいるかですが、守口市でも、ぜひ取り入れてほしいです。

もう一つは、厚生労働省が出している地域包括ケアです。この会議では、30代くらいの子育て世代のことが中心になっていますが、やはり「老後も安心して住める」と思える地域であることが必要です。地域包括ケアとは、医療から介護などの誰でも利用するサービスを継続的にスムーズに受けることができるシステムづくりで、現在、厚生労働省が打ち出しています。この地域包括ケアシステムが、しっかり有機的に動いていく地域にするこ

とが必要だと思えます。

このような点をこの計画にも入れていただきたいと思います。これよりもっと大きな総合計画にも入っていると思いますが、その辺りとも連動して、住みやすいまちになっていくことが必要だと思えます。

◎委員長

基本目標2にも関わってくる、非常に貴重なご意見でした。

○委員

基本目標1は、どれも重要ですが、特に「④魅力ある学校教育を提供する」に、力を入れていただきたいと思います。現状報告で、30～40代のファミリー層、子どもが小中学校に通っている子育て世代が転出しているということがありました。そのため、暮らしたいまちということを考えると、一定の教育水準が高いことが大事な要素になります。他の課題と違って、一気に取り組むわけにはいかず、時間がかかるものなので、着実にしなければならぬテーマの一つだと思えます。

○委員

「⑤安心して子どもを預けることができる保育サービスを提供する」という保育サービスの充実と、「④魅力ある学校教育を提供する」の中でも、「学力向上に向けた取組」が大事だと思えます。他市に比べて共働き世帯が多いと思うので、保護者が仕事に集中できるよう、民間の保育所事業者が入りやすい制度を作るなどで、保育サービスを充実させることが大事だと思えます。

学校教育については、まずは学力向上の充実が大事だと思えます。当然、設備が新しいほうがよいですが、小学校を決める際に、「あの学校は古いから嫌だ」というより、保護者が、「あの学校はよい学校だから」ということで、子どもを行かせるほうが多いと思えます。学力向上をしっかり行えば、他地域から生徒が転入してくることも十分あり得ます。結果が出るまでに時間はかかりますが、学力向上は非常に大事だと思えます。

◎委員長

保育園の充実は、基本目標3の、しごとの場を提供することにも関わると思えます。

○委員

住宅の件でお話しします。新婚世帯は、給料が安く家賃を払うことが大変です。若い世代に期間限定でもよいので、少しでも家賃補助があればよいと思えます。若い人が集まれば、親同士のネットワークが広がり、それによって、医療費助成など「守口市に住めば、このようなよいことがある」ということが、SNSなどで広がっていくと思えます。

住宅が難しくても、昔のマンションの中にあつた集会所のような、サークル活動をしていただく場や、子育てについて話し合つていただく場を設けていただきたいと思います。また、市民の中から、PRしていただくサポーターを募集してはどうかと思います。若い人で趣味や特技を持っている人に集まってもらい、PRのお手伝いをしていただければ、自然と男女が集まるようになって婚活にもつながると思います。

○委員

公立の小中学校の学力の向上も大切ですが、私立の小学校の誘致を考えてみてはどうでしょうか。最寄り駅は大和田ですが、守口市内では大阪国際大学附属の小学校しかなかったのではないのでしょうか。

◎委員長

大阪国際大学には、附属小学校はありません。幼稚園と中学校、高校です。

○委員

失礼いたしました。あまりにも郊外になると難しいですが、守口市は大阪市に近いロケーションなので、私立小学校誘致について他にひけをとらないと思います。

先ほどの委員の家賃補助の話の補足になりますが、賃貸マンションに住んでいるときに家賃補助を受けて、家賃補助の期間が終わると他市と引っ越していくというケースもみられます。定住促進を目的とするなら、購入していただくことがポイントなので、住宅ローン金利の一部負担を考えてみてはどうでしょうか。定住促進につなげるために、例えば、ローン期間の最初の10年間は金利の何パーセントかを負担するなどです。

◎委員長

賃貸で住んでいる人は、住居が古くなると引越するなどの側面もみられます。

○委員

NPOで土曜日に授業をしてはというご意見がありましたが、塾の費用を負担している市もあります。「この市に住めば成績が上がる」というものがあればよいと思います。大阪府でも、成績の高い順位が出るとその市は注目されるので、アピール度は高いです。

教育面では、成績だけでなくクラブ活動も大事です。先日、守口市出身で相撲部屋に入った人がいましたが、スポーツ振興という意味で、スポーツでも活躍できる人を輩出することが重要で、そのPRも必要です。

◎委員長

地方では、市町村が土曜日の英語教育をサポートしているところがあります。強制では

なく、希望者が通えるようになっていきます。

○委員

この中では、魅力ある学校教育、保育サービス、公園などのまちづくりが大切だと思います。30代のファミリー層の定住を考えると、保育所に入れるかどうか重要です。私は大阪市に住んでいますが、保育所の願書を5つ出しても、抽選で希望する保育所に子どもを預けられるかどうかという厳しい状況だとよく聞きますし、隠れ待機児童の問題や就労環境と保育所サービスのミスマッチも課題です。また、公園があれば、子育てする上で、健康面も安心です。30代は、子どもが就学前の人が多いと思うので、子育てが住環境の大きな選択要因になっていると思います。

学校教育で言えば、大阪市では、公立の小学校でも、そこに入れたいために移り住む人がいると聞きます。学力を上げることでブランディング化に力を入れていくのもよいと思います。

◎委員長

昔は、「越境入学」と言われましたが、まさにそのことだと思います。

次に、基本目標2で、優先することについてご意見をお願いします。

○委員

すべて大事ですが、守口市の人口ビジョンを考えると、中でも③が大事だと思います。本来の守口市の魅力を高めることを考えると、公園の計画的な整備や安全面などから③だと思います。われわれが、まず第一にこの辺りに取り組んでいかなければならないと思っています。

◎委員長

アンケート結果でも、守口市は公園が暗いので、雰囲気が悪いということが出ていました。公園は思っているより、意外に重要です。子どもが楽しそうに声を上げて遊んでいる公園は、ポジティブで雰囲気がよいです。

○委員

コンパクトシティという考え方で、今後再開発されるのはよいと思います。他市に比べれば、生活するうえで大人は住みやすいと思います。子どもについて言えば、今特に必要なのは思い切り遊べる場所です。ボール遊びやサッカー、野球ができる場所は、今はほとんどありません。われわれが子どもの頃に遊んでいたような、子どもが遊べる環境を与えてあげたいと思います。

○委員

守口市は、「便利」はかなり認知されているため、「安心」、「快適」がこれからの取組のポイントだと思います。市内を回って見ていると、中でも、緑が少ない印象と遊び場が少ないという印象があります。そのようなことから、③が大事です。次いで②が大事だと思います。「安心」、「快適」というキーワードに基づいて、もっともフィットすることから進めていただければと思います。

○委員

①と③の「密集市街地の再整備における若い世帯向け住宅の供給促進」と合わせて、「公園の計画的な整備・改修」で、居住スペースと公園スペースを効率的に再配置できればよいと思います。小中学校の統廃合が進んでいるので種地はあります。密集市街地は再整備しなければならないことになっているので、それらをうまく組み合わせていければよいと思います。

○委員

子育ての面で、他市でもファミリー・サポートを行っていますが、昔の近所同士のお付き合いのように、会員同士で子育てを手伝って、何かあったときに見てもらえるネットワークを作っていただきたいと思います。また、情操教育にもつながるような講座を多く開催して保護者に受けていただくことで、虐待防止などにつながればよいと思います。

○委員

防犯カメラについては、設置台数を指標として掲げているので、その目指す値を実現化していただきたいと思います。現在、防犯灯の数が少ないのであれば、LED化という言葉は出てきますが、数も増やせればと思います。ただ、防犯カメラがあり過ぎることのデメリットもあると思うので、そのバランスが難しいと思います。

◎委員長

プライバシーと安全なまちと、どちらを優先するかという難しい時代になってきました。

○委員

私の両親も年老いてきて、父は施設に入り、母が一軒家に1人で住んでいます。いずれは、母もそこには住まなくなり、空き家になります。最近、ウォーキングをしていると、空き家がちらほらと見受けられます。商店も崩れたようになっていたり、壊れたシャッターが下りているなど、防犯上よくない状況になっているところがあります。このような状況が、防犯や子育てにもつながるため、空き家対策は重要です。防災面からも大事なので、住み替えの意味でも、今後力を入れていただきたいです。

○委員

理想を言えば、面として、若い世代が移り住めるような住宅ストックや、周辺の学校や公園などをうまく供給することです。これらをできるところから着々とやっていくことだと思いますが、施策を行ううえでは、効果的なエリアというものがあると思います。防犯対策でも、どこをLED化すればよいかなど、優先順位をつけて進めていただきたいと思います。

◎委員長

私は、あまり守口市に精通していませんが、この周辺に京阪の駅と地下鉄の駅がありますが、地下鉄の駅の周囲は放ったらかしという雰囲気があります。京阪は古くてゴミゴミしており、いかにも駅前というイメージです。京阪のように一点豪華でやるのがよいのか、多面的に駅周辺を活性化するのがよいのか、いかがでしょうか。

○委員

私もそこまで詳しくありませんが、どのようなまちを作るかによって、戦略が変わります。守口市駅が賑わっているので、地下鉄の駅も同じように賑わいを創出するというコンセプトであれば、そのような開発を進めていくことになります。課題のとらえ方によって、対応も異なってきます。

◎委員長

基本目標3で、優先することについてご意見をお願いします。

○委員

「①」のビジネス発展の支援が重要だと思います。また、守口市に、新しい産業や企業に来てほしいと思います。そのためには創業支援が大事です。既存の企業が発展して事業を承継してもらうよう支援することと、企業にも新陳代謝があるため、新しい産業や企業の誘致によって、そこから大きくなってもらうよう支援を行うという、両面からの支援が必要です。産業が強くなれば雇用も出てきて、雇用が強くなればそこで働く人が住んでくれます。私の立場としても、①と②を一生懸命やっていきたいと思います。

○委員

私は、しごとに関しては、市外に出て働いていただいてもよいと思っています。守口市の中でのしごととしては、商店街の活性化が、地元のコミュニティを作っていく核となると思います。大規模なショッピングセンターに高齢者は週に何度も行くことができません。買い物難民をなくすためにも、毎日歩いて行って、新鮮なものを買に行ける市場があっ

てほしいと思います。週に1～2回の買い物では、加工食品などになってしまいます。生活習慣病をもっている高齢者が、カップラーメンやレトルト食品を週に1回購入するようでは、体のためにもよくありません。歩いて行ける近場の市場や商店街がよいです。それには、個人商店の復活が欠かせないと思います。

○委員

人口減少と同じように言われている、事業所数の減少があります。守口市は門真市の隣で、製造業を中心とする産業が集積しています。伝統や技術力をもつ企業が多いですが、後継者不足から事業継承の課題を抱えています。せつかくの人や技術がなくなると雇用機会をなくしてしまうので、ぜひ大事にしたいと思います。ビジネスマッチングなどの様々な取組がなされていますが、大事にしたいです。

商業で言えば、まちの伝統や文化を後ろ盾や下支えしてきたのは、商店街の皆様です。商業の力は大きいと思います。まちの賑わいも、商業の活力がなければ維持できません。空き店舗に入ってくる人を集めることや、創業することで雇用機会を拡大することになるため、特に①、②を中心に進めていただきたいと思います。

◎委員長

テレビで見ると、さびれた商店街に人が再び来るようになった成功例では、行政がサポートしているケースがあります。この部分は、行政がネットワークを作って取り組んでいくのがよいと思います。費用も割と少なく、よい結果が出るのではと思います。

○委員

大学の学生に空き店舗対策の提案をいただいて、空き店舗でビジネスをやってもらったり、様々なNPOにセミナー会場で使ってもらってはどうかと思います。学生に提案してもらおうと、斬新なアイデアが出てきて、意外に1つの成功例になっているところもあります。

◎委員長

最近、旧国立大学について新聞等に掲載されています。旧国立大学の中でも学術研究を行うところは別にして、地方貢献を行っているところはプラスに評価され、国から税金でいただく運営費が10数パーセント増えるという優遇があります。逆に頑張っていないところは、マイナス25%です。研究費も含めてなので、25%はかなり厳しい判定です。私立大学も文部科学省からずいぶんお金ももらっていますが、来年、再来年辺りには、同様のペナルティが出たり、プラスになったりすると思います。私が勤務している大阪国際大学でも、何としてでも、市のプロジェクトと一緒に加わらせていただきたいと思います。学生は実習なので、人件費は無料です。市からもアプローチしていただき、大学からも提

案させていただければ、三方両得まではいきませんが、二方両得はあると思います。

○委員

学生にとっても、起業の教育になるかもしれません。

◎委員長

学生にとっては、就職面接で学生時代に経験したことを話すことができれば、希望する仕事に就けるかもしれません。学生にとっては、大変有意義な教育の場になります。

○委員

「③ワーク・ライフ・バランスをとりやすい職場を増やす」ですが、現在新聞、テレビ等でワーク・ライフ・バランスのことが出ており、今まで以上にこの考え方が注目されています。いかに従業員が働きやすくなるかということなので、これが衰退することはないと思います。しかし、企業にも体力があるので、できることとできないことがあります。例えば、産休や育児休業が取りやすいなどの情報提供をもっと整備すれば、地元商店も含めて、市内の会社で働きやすいことを実感できます。また、市外からも働くために守口市に来ることが増えてくると思います。ワーク・ライフ・バランスをとりやすい職場を増やすしくみがあればよいと思います。

○委員

「④若い世代の就業を支援する」では、企業に求めるだけでなく、市役所も率先して若い人を雇用することをPRしていただきたいと思います。ワーク・ライフ・バランスについてですが、女性にとって出産、育児はとても大変なことです。休むことに対して理解を得られないということをよく聞きます。相談窓口のようなものがあればよいと思います。また、育児休業やフレックスタイム制度を充実していただきたいと思います。

○委員

私はこの分野にはあまり詳しくないのですが、弊社で大学と連携して取組を行っている部署があります。商店街の活性化で学生を活用してはというご意見がありましたが、学生のアイデアは、すべてではありませんが、たまにキラッと光るものがあるのは事実です。それらをいかに取り入れていくかということはあると思います。1つの取組として、その方向性も検討いただきたいです。

○委員

商店街での店舗活用をどんどん進めていただきたいです。そのような場面で学生を活用することも1つの案だと思います。商店街の中で1～2週間ショップを安く貸す取組も行

っています。そのようなときにPRを手伝ってあげるなど、活性化に注力することも重要だと思います。

○委員

空き店舗の利用もそうですが、学生も含めて、芸術や新規ビジネスを立ち上げる人ばかりを集める特区を作って創業支援やPR支援をすることも重要だと思います。

概要版の就業率の48.7%から50.0%というのは、守口市内外に関わらないということですか。

●事務局

数値目標は、15歳以上の市民の市内外での就業者数としています。

○委員

就業先は市内に限らずということですか。

●事務局

基本目標では、市内で様々な仕事場が提供されることによる就業率アップを見込んでいますが、数値目標は、就業先は市内外に関わらず就業している市民の数です。

◎委員長

基本目標4で、ご意見はありませんか。

守口市は、子どもの医療補助もそうですが、様々な魅力がありますが、発信が不十分ではないかというご意見がありました。ずっと守口市に住んでおられる委員はいかがですか。

○委員

市民がどんどん率先して発信してもらうことが理想の形だと思うので、若い人に市民サポーターになっていただくなど呼び掛けて、ネットワークをどんどん広げていただきたいと思います。マガジン誌に掲載したり、ラジオでの宣伝なども行っていただきたいです。

◎委員長

本日は、非常に多くの具体化に向けたご意見をいただきました。それらを踏まえて、平成28年度の守口市の取組として、市で具体的に優先順位を考えながら行っていくことを報告いただけたと思います。

5月末くらいに、もう1回委員会を開催して、具体的なものについて、再度検証したいと思います。最後に総括として言っておきたいことがあれば、お願いします。

学生のよい活用をしていただけると、大学としても喜ばしいことですし、それが単にあ

る時期だけ守口市に住むのではなく、定住化のきっかけになればよいと思いますし、地元の商店街の活性化に結び付けばよいと思います。

5月くらいの次回の開催に向けて、委員の方も準備いただきたいと思います。本日の議事録の署名委員は、佐竹委員と長谷川委員にお願いします。

Ⅲ. 閉会

◎委員長

本日も非常に有意義で活発な議論をいただきまして、ありがとうございました。

以上